

2020年6月16日

防災学術連携体 防災連携委員 各位  
特任会員 各位

防災学術連携体 代表幹事 米田雅子  
代表幹事 古谷誠章

## 防災学術連携体 2020年度総会（書面決議）のお願い

防災学術連携体の活動では、日頃から大変お世話になっております。

防災学術連携体2020年度の総会につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑みまして、既にご案内の通り、予定を変更して「書面・電磁的方法による議決権の行使」を採用して決議させていただくことになりました。

つきましては、下記の審議事項の第1号議案～第3号議案（各議案の内容は本メールに別添の資料による）につきまして、「賛成」または「反対」のいずれかを選択して、6月25日まで（必着）にご返信ください。

返信の方法は、添付の書面議決書にお名前、学会名（防災連携委員の方のみ）、をご記入の上、押印いただき、(1) E-メール、(2) Fax、(3) 郵便のいずれかにて下記送付先にお送りください。

(1) E-メールの送り先：[info@janet-dr.com](mailto:info@janet-dr.com) 小野口弘美宛

書面議決書にご記入、押印いただいたものをスキャンして作成したPDFファイルを添付してお送りください。

(2) Fax または (3)郵便 の送り先：

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-4 ワイヒルズ2階 米田事務所 中川寛子宛  
FAX 03-5876-8463

### [ 記 ]

■ 審議事項（議案内容は別添の議案資料による）

第1号議案：2019年度事業報告並びに決算に関する件

第2号議案：2020年度事業計画並びに予算に関する件

第3号議案：防災学術連携体次期体制に関する件

総会の決議は、すべての防災連携委員と特任会員によって構成されます。総会の決議は、総会構成員の過半数の回答書提出により成立し、提出者の過半数をもって議決を行います。

2020年度防災学術連携体総会の内容についての問合せ先

事務局長 田村 和夫 [tamkaz.kento@ninus.ocn.ne.jp](mailto:tamkaz.kento@ninus.ocn.ne.jp)  
小野寺 篤 [onodera@aij.or.jp](mailto:onodera@aij.or.jp)

# 第 1 号議案

## 2019 年度 事業報告並びに決算に関する件

### ( 1 ) 2019 年度 事業報告(案)

自 2019 年 4 月 1 日  
至 2020 年 3 月 31 日

2019 年度の事業について、防災学術連携体規約第 4 条（事業）の各事項に沿って、その内容を報告する。

#### ( 1 ) 災害発生等、緊急事態において必要な活動を行う

##### 令和元年台風第 19 号に関する緊急報告会

12 月 24 日、日本学術会議講堂にて「令和元年台風第 19 号に関する緊急報告会」を開催した。日本学術会議大会議室、大阪常翔ホールにてインターネットによる同時中継を行い、台風第 19 号による被害状況、今後の対策について報告・意見交換を行った。講演者、聴講者、報道関係者をあわせて 720 名の参加があった。関連して、防災学術連携体ウェブサイトに災害情報のページを開設。各学会の調査情報、国土交通省・気象庁などの最新情報を掲載し、関係者間の情報共有に努めた。

#### ( 2 ) 毎年シンポジウムを日本学術会議と連携して開催する

##### 第 8 回防災学術連携シンポジウム

10 月 19 日、20 日に名古屋市ささしまライブ 24 エリアで開催された第 4 回防災推進国民大会において、日本学術会議公開シンポジウム／第 8 回防災学術連携シンポジウムを開催した。「あなたが知りたい防災科学の最前線－激化する気象災害に備える－」と題したセッションでは、市民が知りたい防災科学の最前線について分かりやすく伝えるとともに、防災科学に関する質問やリクエストを受け付け、後日、防災学術連携体のウェブサイト上にて、各分野の研究者がそれに答えた。市民、専門家、行政関係者を合わせて、150 名を超える参加があった。

##### 第 9 回防災学術連携シンポジウム

2020 年 3 月 18 日、日本学術会議講堂にて第 9 回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」を開催した。本シンポジウムでは特定の自然災害ではなく、低頻度ではあるが発生すると巨大な災害となる自然災害について、理学、工学、人文・社会科学系の各学会から自然災害種別ごとのテーマで発表、質疑・討論を行った。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、無観客によるインターネット中継を行い、後日、防災学術連携体ウェブサイトよりアーカイブを公開した。

(3) 各学会の取組み等を紹介する防災関連の学術総合ポータルサイトを運営する

防災学術連携体ウェブサイトは、防災関連の学術総合ポータルサイトとして利用されることを目指し、参加学会からのお知らせや行事案内を集約し、随時情報の追加・更新が行われた。令和元年東日本台風（台風第19号）による豪雨災害の際は、各学会の調査結果等の情報が共有・公表され、分野横断的な学術連携の場の提供が実践・起動された。

(4) 日本学術会議と連携して、学会間の連絡網を構築し、緊急事態において必要な活動を行う

日本学術会議に設置されている課題別委員会「防災減災学術連携委員会／米田雅子委員長、目黒公郎幹事、田村和夫幹事」（防災減災・災害復興に関する学術連携委員会を2018年2月23日に改名）と連携して活動することにより、日本学術会議、政府との常時および緊急時の関係を緊密にしている。

学会間の連絡網を構築するため、防災学術連携体ウェブサイトを頻繁に更新すると同時に、防災連携委員に向けた最新情報のメール配信している。防災連携委員の連絡先をまとめた名簿を防災連携委員の間で共有することにより、緊急時の連絡を可能としている。重ねて、過去のシンポジウム参加者、メディアなど2,000名を超える関連の人々にニュースレターを発信している。

(5) 政府・自治体・関係機関等との交流を促進する

#### 防災推進国民会議

防災推進国民会議は中央防災会議会長（内閣総理大臣）が依頼する各界各層の有識者をもって構成し、中央防災会議会長（内閣総理大臣）が開催するとされ、学術界から日本学術会議と防災学術連携体がメンバーとなっている。第1回は2015年7月に開催され、2019年12月12日には第5回が開かれ、米田雅子代表幹事の代理として、依田照彦運営幹事が出席した。

#### 政府・関係機関等との交流促進

政府や関係機関等との交流を促進するために各種の企画を検討した。具体的には(2)で記載したとおり、内閣府主催の第4回防災推進国民大会（名古屋）へ参加し、「第8回防災学術連携シンポジウム」（名古屋市ささしまライブ24エリア）を開催した。

また、6月13日の総会後に、学術と行政の平常時の連携を強めるとともに緊急時の連携を図ることを目的として、日本学術会議 防災減災学術連携委員会、内閣府防災担当、府省庁の防災関係者と「第2回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」を開催した。

#### 日本学術会議 協力学術研究団体への指定

防災学術連携体は2020年2月に「日本学術会議 協力学術研究団体」に指定された。

学術研究団体の連合会たる協力学術研究団体は、日本学術会議と各学術研究団体との連絡調整を行うとともに、日本学術会議の各委員会の審議に協力することができるとされている。

この指定により防災学術連携体は、日本学術会議、各構成学会との情報共有・発信をさらに進め、日本学術会議の防災減災学術連携委員会に協力して、防災・減災の実現に努める。

(6) 学会間の交流をすすめ、より総合的な視点をもつ研究者を育てる

学会間の交流を進める手段の一つとするとともに、社会に対する情報発信、便宜供与を目的として、各学会の防災関連委員会の委員会名称、委員長・幹事長等、キーワード検索するために構築したデータベースの充実を図った。

(7) 国際交流を進め、世界の防災に寄与する

防災学術連携体ウェブサイトにおいて英文情報の更新を行い、防災学術連携体の英文パンフレットとともに、海外に対する情報発信手段としている。また、防災学術連携体を構成する学会、防災連携委員、特任会員などを通じて、防災学術連携体の活動成果を海外に発信している。

(8) その他本会の目的を達成するために必要な事業を行う

防災学術連携体設立の社会に対する広報に資するために、各種報道機関からの取材申し込みに対して積極的に対応した。防災学術連携体の設立意義など、各種メディア掲載情報を防災学術連携体ウェブサイトにとりまとめ、掲載した。

## (2) 2019年度 防災学術連携体 収支報告書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費		
年会費	1,820,000	
2 雑収入		
受取利子	14	
収入合計(A)		1,820,014
II 支出の部		
1 事業費		
(1) 第4回防災推進国民大会(10月19日・名古屋)		
チラシ作成・修正	50,000	
会場設営・登壇者お茶代等	2,420	
事務局交通費	67,630	
(2) 第9回防災学術連携シンポジウム (2020年3月18日)(配信のみ)		
チラシ作成・資料収集	50,000	
当日アルバイト代(学生2名)	20,000	
(3) 緊急災害調査報告会 (令和元年台風第19号に関する緊急報告会12月24日)		
チラシ作成・修正	50,000	
事務局交通費	8,140	
当日アルバイト代(学生4名)	40,000	
(4) 総会・意見交換会(6月13日)		
資料編集	20,000	
事務局交通費	3,060	
当日アルバイト代(学生1名)	10,000	
(5) メール等通信費	50,000	
事業費計		371,250
2 運営管理費		
事務局人件費		
アルバイト代(2名)	600,000	
交通費	150,240	
事務局管理費		
コピー代・通信費等	241,448	
運営管理費計		991,688
支出合計(B)		1,362,938
当期収支差額(A)-(B)		457,076
前期繰越収支差額		838,921
次期繰越収支差額		1,295,997

原本に相違ありません。

防災学術連携体      監事      森口 祐一

森口 祐一 

2019年度収支決算  
監査報告書

私は、監事として、防災学術連携体の2019年度、すなわち、2019年4月1日から2020年3月31日までの関係書類及び伝票を閲覧した結果、本収支報告書が適正であることを報告致します。

2020年4月25日

防災学術連携体 監事  
森口 祐一

森口 祐一 

## 第 2 号議案

### 2020 年度 事業計画並びに予算に関する件

#### ( 1 ) 2020 年度 事業計画 ( 案 )

自 2020 年 4 月 1 日

至 2021 年 3 月 31 日

2020 年度の事業計画について、防災学術連携体規約第 4 条 ( 事業 ) の各事項に沿って、その内容を示す。

#### ( 1 ) 毎年シンポジウムを日本学術会議と連携して開催する

##### 1) 第 10 回防災学術連携シンポジウム

「第 5 回防災推進国民大会」( 内閣府・防災推進協議会・防災推進国民大会主催 ) に参加し、防災・減災に関連するシンポジウムを開催する。

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会・防災学術連携体 ( 58 学会 )

日時：2020 年 10 月 3 日 ( 土 )、4 日 ( 日 )

会場：広島 ( 広島国際会議場及びその周辺：予定 )

##### 2) 第 11 回防災学術連携シンポジウム

日本学術会議 防災減災学術連携委員会と共催で、東日本大震災十周年を機に、これまでの活動を振り返り今後の取組みを発表するシンポジウムを企画・実施する。開催日は、1 月 7 日 ( 木 ) ( または 14 日 ( 木 ) ) を予定。

なお同時に、東日本大震災十周年「防災学術連携体 58 学会の記録」の冊子を作成し、参加者及び関係各所に配布する。

##### 3) 緊急災害調査報告会・緊急メッセージの発信等

当該年度内に大規模災害が発生した場合、防災減災学術連携委員会と共催で、緊急報告会や緊急メッセージの発信等を企画、実施する。

#### ( 2 ) 各学会の取組み等を紹介する防災関連の学術総合ポータルサイトを運営する

防災学術連携体ウェブサイトについては、防災関連の学術総合ポータルサイトとして利用されることを目的として、ホームページには参加学会からのお知らせ、行事案内を集約、随時更新する。また、ホームページ上の各サイト「概要と参加学会」「各学会の防災関連委員会紹介」「Activities Introduction」「常時の交流・連携と災害時の緊急連絡網」「近年の自然災害に関する情報」「学術フォーラム、公開シンポジウム」「声明・報告等」「学会出版物・メディア掲載情報」「国内外のお知らせ」「国際協力・学会連携」「防災推進国民会議・日本学術会議 ( 防災関連 )」「賛助会員」「Link」「防災連携委員のページ」において、より一層内容の充実を図る。

(3) 日本学術会議と連携して、学会間の連絡網を構築し、緊急事態において必要な活動を行う

常時は、学会間の連絡を緊密にするとともに、交流を促進するための手段として、災害などの緊急時には緊急連絡網として機能させることを目的として、防災連携委員、各学会の事務局の名簿の更新を継続する。

(4) 政府・自治体・関係機関等との交流を促進する

内閣府防災担当が事務局を務める防災推進国民会議に委員として参画するとともに、第5回防災推進国民大会に積極的に参加する。

また、公共放送（NHK）と共有する、各学会の防災学術連携委員と防災学術連携体幹事の緊急時の名簿を、適宜更新して活用する。

(5) 学会間の交流をすすめ、より総合的な視点をもつ研究者を育てる

1) Web 研究会

会員学会の連携を深めることを目的に、各学会から順に関心テーマを決めて戴き、防災連携委員・特任会員等を対象に、話題提供と質疑と討論を行う Web 研究会を定期的で開催する。

2) データベースの更新と活用

各学会の防災関連委員会のデータベースについて、随時内容の更新を行い、常に最新の情報が閲覧できるようにする。学会間の交流を進める手段の一つとするとともに、市民や自治体などが各学会やその委員会、またはこれらが発信する情報へのアクセスを容易にすることを目的とする。

(6) 国際交流を進め、世界の防災に寄与する

防災学術連携体ウェブサイトにおいて、英文情報の更新を行い、海外に対する情報発信手段とする。また、防災学術連携体を構成する学会、防災連携委員、特任会員などを通じて、防災学術連携体の活動成果を海外に発信、世界の防災への寄与を図る。

(7) その他本会の目的を達成するために必要な事業を行う

防災学術連携体設立の社会に対する広報に資するために、各種報道機関からの取材申し込みに対して積極的に対応する。メディア掲載情報は、防災学術連携体ウェブサイトにとりまとめ、掲載する。



## (2) 2020年度 防災学術連携体 収支予算(案)

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 収入の部</b>		
1. 会費		
年会費	1,850,000	
当期収入合計		1,850,000
前期繰越収支差額		1,295,997
収入合計		3,145,997
<b>II 支出の部</b>		
1 事業費		
(1) 第5回防災推進国民大会参加(10/3, 4 広島)		
チラシ作成・資料収集・編集	50,000	
会場設営・コピー代・お茶代等	20,000	
当日アルバイト代	20,000	
事務局交通費	120,000	
(2) 防災学術連携シンポジウム開催(1月)		
チラシ作成・資料収集・編集	50,000	
東日本大震災10周年資料集	300,000	
会場設営・コピー代・お茶代等	20,000	
当日アルバイト代	20,000	
(3) 緊急災害調査報告会		
会場設営・コピー代・お茶代等	20,000	
チラシ作成・資料収集・編集	50,000	
(4) 総会、学協会・府省庁の連絡会(7月15日)		
会場設営・コピー代・お茶代等	20,000	
会場費	30,000	
(5) ポータルサイト運営・メール等通信費	50,000	
事業費計		770,000
2 運営管理費		
事務局人件費		
アルバイト代(2名)	600,000	
交通費	200,000	
事務局管理費		
コピー代・通信費・消耗品等	240,000	
運営管理費計		1,040,000
3 予備費	40,000	
支出合計		1,850,000
当期収支差額		0
次期繰越収支差額		1,295,997

### 第3号議案

#### 防災学術連携体 次期体制に関する件

#### (1) 幹事・監事の選任(案) (2020-2021年度)

##### <退任幹事>

氏名	選出母体	所属
古谷 誠章	防災連携委員	日本建築学会前会長
小井土雄一	防災連携委員	日本災害医学会前代表理事
小野寺 篤	防災連携委員	日本建築学会事務局長代理
瀬上 哲秀	防災連携委員	日本気象学会前副理事長
依田 照彦	特任会員	日本学術会議連携会員

##### <留任幹事>

氏名	選出母体	所属
宇根 寛	防災連携委員	日本地図学会評議員
小松 利光	特任会員	日本学術会議連携会員
執印 康裕	防災連携委員	砂防学会理事
高橋 和雄	防災連携委員	日本自然災害学会元会長
高橋 幸弘	防災連携委員	日本地球惑星科学連合代議員
高橋 良和	特任会員	日本学術会議連携会員
寶 馨	特任会員	日本学術会議連携会員、日本自然災害学会前会長 水文・水資源学会会長
田村 和夫	特任会員	日本学術会議連携会員
塚田 幸広	防災連携委員	土木学会専務理事
東畑 郁生	特任会員	日本学術会議連携会員、地盤工学会元会長
永野 正行	特任会員	日本学術会議連携会員
松島 信一	防災連携委員	日本地震学会理事、日本自然災害学会理事
目黒 公郎	特任会員	日本学術会議連携会員、地域安全学会会長、 日本自然災害学会会長、日本地震工学会元会長
山本あい子	防災連携委員	日本学術会議連携会員、日本災害看護学会理事
山本佳世子	特任会員	日本学術会議連携会員、日本計画行政学会常務理事、 地理情報システム学会理事、日本地理学会理事
吉本 充宏	防災連携委員	日本火山学会
米田 雅子	特任会員	日本学術会議会員、防災減災学術連携委員会委員長
和田 章	特任会員	日本学術会議連携会員、日本建築学会元会長

##### <新任幹事>

氏名	選出母体	所属
大友 康裕	防災連携委員	日本災害医学会代表理事
近藤 久禎	防災連携委員	日本災害医学会理事
森本 章倫	防災連携委員	日本都市計画学会常務理事
市之瀬敏勝	防災連携委員	日本建築学会副会長
橋田 俊彦	防災連携委員	日本気象学会副理事長

##### <留任監事>

氏名	選出母体	所属
森口 祐一	特任会員	日本学術会議連携会員

**(2) 主担当学会および副担当学会 (2020-2021 年度)**

主担当学会      日本災害医学会

副担当学会      日本都市計画学会